

平成24年行政事業レビューシート

(文部科学省)

事業名	国立大学法人船舶建造に必要な経費	担当部局庁	高等教育局	作成責任者				
事業開始・終了(予定)年度	平成16年度	担当課室	専門教育課	専門教育課長 内藤 敏也				
会計区分	一般会計	施策名	IV-1 大学などにおける教育研究の質の向上 IV-2 大学などにおける教育研究基盤の整備 IX-1 学術研究の振興					
根拠法令 (具体的な条項も記載)	国立大学法人法第35条 独立行政法人通則法第46条 大学設置基準39条 海洋基本法第28条	関係する計画、通知等	-					
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	国立大学法人が行う船舶の建造に要する経費に対して補助を行い、もって大学の教育研究に対する国民の要請にこたえとともに、我が国の高等教育及び学術研究の水準の向上と均衡ある発展を図る。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	国立大学法人の事業運営に資するため、海上における実地の教育研究に必要な船舶の建造に係る経費を補助することにより、商船学、水産学など海上における実地の教育研究が不可欠な分野の基盤の整備を図り、実践的な人材養成及び高度な学術研究を推進する。 平成21年度から平成23年度にかけて建造した鹿児島大学「かごしま丸」は昭和56年建造、平成24年度から平成25年度にかけて建造する北海道大学「おしよ丸」は昭和58年建造でいずれも老朽化が進行し、甲板機器、機関部主機関、船内配管などに不具合がたびたび発生し、安全性の問題があることから、代船の建造は不可欠な状況であり、安全に教育・調査を行うため実施する。 (補助金: 定額補助)							
実施方法	☐ 直接実施 ☐ 業務委託等 ☒ 補助 ☐ 貸付 ☐ その他							
予算額・執行額 (単位: 百万円)	予算の状況 当初予算 補正予算 繰越し等 計	21年度	22年度	23年度	24年度	25年度要求		
		1,561	1,576	1,780	3,500	3,500		
		0	0	0	0			
		0	0	0	0			
		1,561	1,576	1,780	3,500	3,500		
	執行額	1,561	1,576	1,780				
	執行率 (%)	100.0%	100.0%	100.0%				
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標		成果実績 達成度	単位	21年度	22年度	23年度	目標値 (年度)
	水産学や商船学に関する教育・調査を安全に行うことを目的として代船を建造するものであり、この目的に対し成果目標を定量的に示すことはなじまない。			・鹿児島大学「かごしま丸」は、共同利用する大学・学部等の学部及び大学院課程の学生を対象に、広く、水産、海洋資源及び海洋生物及び船舶の運航に関する教育を行っている。 ・船舶に起因する事故等は発生しておらず、安全に教育・調査・研究が進められている。				
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標		活動実績 (当初見込み)	単位	21年度	22年度	23年度	24年度活動見込
	国立大学における練習船の代船建造			平成21年度: 鹿児島大学「かごしま丸」設計等 平成22年度: 鹿児島大学「かごしま丸」起工 平成23年度: 鹿児島大学「かごしま丸」竣工 平成24年度: 北海道大学「おしよ丸」設計等、着工(予定)				
単位当たりコスト	— (円/隻)		算出根拠	※船舶建造に要する経費は、教育研究の内容、活動する水域、連続航海日数、学生数等の条件に応じて、個々に異なる仕様となるため、単位当たりコストを算出することはない。				
平成24・25年度予算内訳	費目	24年度当初予算	25年度要求	主な増減理由				
	国立大学法人船舶建造費補助金	3,500百万円	3,500百万円					
	計	3,500百万円	3,500百万円					

事業所管部局による点検				
	評価	項目		評価に関する説明
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。		国立大学における水産学等の教育研究は、広く国民のニーズがあるものであり、これに不可欠な海上における教育研究の基盤となる船舶の整備に係る経費は国において支援する必要がある。 特に、老朽化が進行した船舶について、安全性かつ効率的に船舶を運航できる代船の建造は優先度が高い事業である。
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業となっていないか。		
	—	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。		
資金の流れ、使途・費目・	○	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。		補助事業先(大学)では、船舶を建造する業者を一般競争入札により選定するなど、競争性の確保、及びコスト削減に努めており、費目・使途についても真に必要なものに限定している。
	—	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。		
	○	受益者との負担関係は妥当であるか。		
	○	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。		
	○	費目・使途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。		
活動実績・成果実績	○	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。		建造された船舶では、安全に水産学等に関する教育・研究が行われるとともに、他大学の学生も教育・研究で活用するなど、実効性の高い事業となっている。
	○	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。		
	○	活動実績は見込みに見合ったものであるか。		
	—	類似の事業があるか。その場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。		
	—	※類似事業名とその所管部局・府省名	—	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。		
点検結果	・平成21年度～平成23年度にかけて建造した鹿児島大学「かごしま丸」により安全かつ効率的に教育・研究が行われるようになり、実践的な人材養成及び学術研究が推進されている。 ・鹿児島大学「かごしま丸」は教育関係共同利用拠点として認定され、他大学の教員・学生に多くの利用が予定されている。 ・老朽化している船舶が多いことが今後の検討課題である。 ・経費の執行に関しては、事業年度毎に各大学から提出される実績報告書等において、支出先・使途を把握し、補助金の使用状況や事業目的との整合性について確認を行い、事業の適切な実施に努めている。			
予算監視・効率化チームの所見				
現状通り	1. 事業評価の観点：本事業は、国立大学法人が行う実習船の建造費に対する補助事業であり、計画的な施設整備の実施の観点から検証を行う。 2. 所見：本事業については、必要な施設整備を計画的に実施しているものであり、整備規模の適正化やコスト削減に留意しつつ、効果的・効率的な整備の実施に努めることとし、現行の事業内容を引き続き維持すべきである。			
上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)				
現状通り	建造年数が高齢な実習船から計画的に代船建造を行っている。なお、平成24年度から建造する北海道大学「おしよる丸」は平成23年4月より教育関係共同利用拠点に認定しており、実習船の共同利用を推し進めている。			
補記（過去に事業仕分け・提言型政策仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載）				
関連する過去のレビューシートの事業番号				
平成22年行政事業レビュー	0257	平成23年行政事業レビュー	0169	

資金の流れ
(資金の受け
取り先が何を
行っているか
について補足
する) (単位:
百万円)

文部科学省
1,780百万円

国立大学法人の事業運営に資
するため、海上における実地の
教育研究に必要な船舶の建造
に係る経費を補助する。



【補 助】

A.鹿児島大学
1,780百万円

大学において老朽、劣化した実
習用船舶の代船を建造する

費目・使途 (「資金の流れ」 においてブロックごとに最大の 金額が支出されている者について 記載する。費 目と使途の双方 で実情が分かる ように記載)	A.鹿児島大学			E.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	船舶建造費	船舶建造費(新潟造船(株))	1,770			
	附帯事務費	建造監督料	5			
		旅費・消耗品費等	4			
	計		1,780	計		0
	B.			F.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	C.			G.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0
	D.			H.		
	費 目	使 途	金 額 (百万円)	費 目	使 途	金 額 (百万円)
	計		0	計		0

※表示単位未満四捨五入の関係で積み上げと合計は一致しない

支出先上位10者リスト

A.

※補助事業

	支 出 先	業 務 概 要	支 出 額 (百万円)	入札者数	落札率
1	鹿児島大学	練習船建造	1,780	-	-
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					